

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

佐倉にも多いハクビシン ----- 板井 省司 戦中・思い出秘話 ----- 戸倉 英治  
あなたは「どっち」派 ----- 犬丸 俊博 歯無しにならない話 ----- 西野 昌延

## 入学式

島田敏晃

少し前になります、桜も散り始めたころ、自治会の関係で地元の中学校と小学校の入学式に参列する機会を得ました。

私が入学したころと比べると、人数がとてまもなく減っています。中学校が4クラス、122名で1クラス約30名、小学校が2クラス39名で1クラス約20名。

久しぶりの入学式でしたが、中学校と小学校ではいろいろな面で違っていました。

式次第は開式の言葉、国歌斉唱、新入生呼名：とほぼ同じでしたが、中学校には小学校に無い「歓迎の言葉」と「入学の言葉」がありました。2人とも立派な言葉でしたが、特に「入学の言葉」の新入生代表は、ハキハキとした話し方で、つい先日まで小学生だったとはとても思えないものでした。

でした。

前日に中学校の入学式を経験したせい、小学校の新入生は可愛いという表現がびつたりな感じでした。6年生が新1年生の一人ひとりを手をつないで入場する姿は微笑ましいかぎりです。

こんな可愛い子供の中から、陰惨なイジメをするような子が出て来るかも知れないとは、とても考えられません。是非イジメのない明るい学校になるよう、祈るばかりです。

私たちの子供時代を思い返すと、ガキ大将はいましたが、特定の子にイジメをする子はいませんでした。まして大勢の子が1人の子を苛めるといふ、卑怯な人間は考えられませんでした。

中学校と小学校では、校長の式辞も全然違いました。中学の校長は、一般社会人に話

すような内容や話し方でしたが、小学校の校長は、女性だったこともありすが、幼稚園児に話すような話し方で、6年違うと話す内容や話し方が、こうも違うものかと思われました。

保護者の席も着飾った親御さん達でいっぱい、わが子の晴れ姿を盛んにカメラやビデオに写していました。

両校とも式の途中で、在校生による「歓迎の歌」がありました。私は昔から涙もろいほうでしたが、最近歳を取るにつれその傾向が一段と強くなってきました。特にこのような歌声を聴くとすぐジンときてしまい、こっそり涙をぬぐうことになってしまいます。

式が終わる校門を出たとき清々しい気分になり、出席させていたいただき本当に良かったと思えました。

(編集委員)

## 佐倉にも多い ハクビシン

囲碁仲間が集まる席上で、N氏が「いやあ、うちのスチール倉庫の屋根にハクビシンが大糞をしてくれて参ったよ」と言ったので、それを聞いた仲間が大笑い。

町内の知人からも自宅にあるサクランボの実を夜中に取りに来たハクビシンが、防護ネットに閉じ込められている写真をメールで送ってきたことがある。

また夜中にやけに犬が吠えるので庭に出てみるとハクビシンが柿の実を一個くわえ、もう一個を脇に挟んで逃げに行ったと聞いて驚いた。

聞くと、ハクビシンは佐倉市内のあちこちに現れ、農作物の被害も出ているしいが、夜行性なので実態が掴めないと言っていることである。

ハクビシンは、中国の中華料理では高級食材として扱われている。以前流行した新型コロナウイルスの感染

源ではなかるうかとやり玉に挙げられた。

友人が40年前に伊豆の旅館で食べたことがあったが、食感としてはコンニャクのようなだったそうだ。

ハクビシンはジャコウネコ科である証拠に、カキやミカンを取る時には木に登り塀の上や電線を伝わって町内を移動する。

姿かたちはタヌキに似ているがタヌキにできない身のこなしである。

人家近くに現れるハクビシンは、無人の神社など家の天井裏に生息しているとも言われている。

ところがハクビシンは日本古来の動物と間違われて長野県や山梨県では天然記念物に指定されたことがあったのである。

今では何と一部の地域で害獣に指定され、駆除されているというのだから、天然記念物の扱いから随分な落差である。

(ユーカリが丘 板井省司)

## 戦中・思い出秘話

昭和19年、国の方針で児童の縁故又は集団疎開が実施された。当時、私は都内の品川区の小学5年生であった。地方に縁故先が無いために親元を離れ集団疎開をした。

場所は、都下西多摩郡成木村(現在の青梅市成木)の安楽寺である。寺の表門を入ると左側にある樹高40メートルのヤドリ杉が有名である。その寺で、男女40名程度の児童が寝食を共にした。

思い出の一つに、今でも謎に思っている事がある。昭和20年の春先から、陸軍の兵士10名程が、同じ寺に寄宿し、境内の一部を掘削し防空壕を造成していたのである。防空壕の使用目的は分からないが、それをA級戦犯の東條英機が視察の為に寺に来たことがある。

その際、我々児童を整理させ、毛利家「三本の矢」の家訓を例え話にして、皆で頑張

ろうと訓話をしたのである。一番先頭にいた私は頭を撫でられた思い出がある。

10年程前にその寺を訪ねた時に、当時、寺に嫁いで来た方と「東條英機」の話が出たのである。数年前に再度訪ねて、その真相を探るべく努力をしたが、近隣の人達に聞いて歩いたが、その事すら知らなかった。但し、一人の人が、戦後すぐに、陸将連中がこの村に逃げて来た事を話してくれた。その理由は、この村が地形的に隠れやすいとのことであった。

その話を結びつけると、イラクのフセインと同じく、東條英機が逃げ隠れするための防空壕であったのか。

この秘話は、当時の集団疎開児童と寺の関係者が知るのみで、永久的に世間に知られざる謎になるのは残念である。

(白井 戸倉 英治)

## あなたは『どっち』派

これまでも取り上げられたテーマである茶の湯入門がNHK放送「趣味D.O.楽」で始まった。「茶の湯」というと私の家内は趣味として毎週先生の所に通っているが、定年を迎えた私を気遣ってか「旦那さんを誘ってあげたら」と言われているらしい。また、カレツジ生のH氏も「茶の湯」を学び始めたと聞く。そんなこともあってこの番組を見ることになった次第。禅や書院造りなどには興味があったが、果たして「茶の湯」にどこまで興味を抱くことが出来るかな。

ところで、夫婦が同じ趣味を持つことについて、友人は「旦那の趣味に合わせて始めたけれども、私の絵が度々入選して旦那が不機嫌になったのよ。それで絵画を止めた」とか、「旦那の勧めでゴルフを始めたが、旦那の口うるさ

いアドバイスが我慢できない」

など、夫婦は別々の趣味を持つべきと忠告をくれる。他方

「仲良くハイキングをします」や「毎週一緒に平日ゴルフを楽しんでいます」という話も聞く。

夫婦で同じ趣味を持つことで、このように相反する結果が生まれるのは何故か。趣味といっても「競う」というものがあると、例えば夫婦の仲でも一緒に学ぶという事が難しくなるのかな。あるいは「結果」に重きを持つしまうと、夫婦で同じ趣味を持つことが難しいのかな。色々考えているうちに1回目の放送（全8回）が終わってしまった。

さて、全くの素人の自分が「茶の湯」を学び始めたらどうなるの。夫婦は別の趣味を持つべきか、あるいは同じ趣味を持つ方が良いのか。あなたはどちらを支持されますか！

（大崎台 犬丸 俊博）

## 歯無しにならない話

一 よく磨く

私は若いころから頭は悪いが虫歯がなく、歯だけは丈夫だと自負しておりました。ところが40代半ばでついに虫歯になり、奥歯を1本治療しました。その際、歯科医から「歯茎がかなり下がっているし歯が少しぐらついている。

このまま放っておくと将来歯槽膿漏になって歯が全部抜けちゃうよ」と忠告されました。つまり、歯周病がかなり進行していたのです。私は強いショックと危機感を感じ、その治療・予防方法を尋ねると「食後すぐ15分間正しく歯を磨きなさい」と言われましたが「15分も磨けませんよ」と言うので「超音波歯ブラシがいいですよ」と言ってお社の歯ブラシを勧められました。以後、その歯ブラシで朝夕の食後の約10分間1本1本丁寧に磨いております。

おかげでその後虫歯にならず、歯のぐらつきもなくなりました。

二 よく噛む

父親の躰と申しますが食事の際は子供のころからよく噛んでおります（一口30回〜50回）。よく噛むことで胃腸に負担をかけず、早めに満腹感を感じ、結果的にメタボ予防が期待できるほか歯茎も丈夫になるそうです。

三 間食をしない

食は生きていく上で大切なことでまた楽しみでもあります。私は甘いものも好きですが原則として間食はしません。なぜかというの間食をしたらまた歯磨きをしなければならぬからです。

70歳になりましたが今後ともこれからのことに心掛け、歯の「8020運動」をめざしてまいります。一昔前「芸能人は歯が命」と言っていました。だが「私達も歯が命」です。

（王子台 西野 昌延）

## 6月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鎗木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-1.html>

### わくろ道

4月17日吉野山の西行庵を  
目指した。鳥の声が新緑の中  
に響く石畳の山径を、ひたす  
ら歩いて西行庵に着いた。

庵は奥千本の急斜面中腹、  
小さな広場にあつた。荒壁で  
雨ざらしの草庵だが、周りの  
八分咲きの山桜が美しい。西  
行は吉野を愛し、吉野の桜を  
詠んだ歌は60首を超えている。  
向かいの谷から振り返ると、  
庵は山桜に埋もれていた。

桜が満開の上千本を下つて

いると、爽やかな風を感じた。  
その瞬間、私は思いがけず一  
面の白い山桜の花びらの中に  
いた。花吹雪は暫く続き、ま  
るで夢の中にいるようだった。

金峯山寺蔵王堂の巨大な三  
体の青い秘仏、蔵王権現を間  
近に拝した時、その迫力に圧  
倒された。蔵王権現の御神木  
の山桜を、平安時代から大切  
に保護してきた里人に心から  
感謝し、吉野山を後にした。

（岡本 治之）

### あとがき

カレッジに入学し、どんな  
ことをやるのかも知らずに  
『なかま』の編集委員を引き  
受けてから、早いもので4年  
が過ぎてしまいました。

編集委員の主な役割は、月  
2回行われる編集会議に出席  
し皆様から寄せられた投稿文  
を校正することです。投稿者  
の原文を重視しつつ、より読  
みやすく、より理解しやすい  
文章にすることを使命と考え

4年間取り組んできました。  
編集会議では、いろいろな意  
見が出て熱い議論となること  
もしばしばありました。

編集委員の義務である一面  
記事、さくら道、あとがきの  
文章作成を、4年間で合計9  
回行いましたが、毎回頭を悩  
まし、大変な苦勞をしました。  
しかし、今となっては全て  
良い思い出です。これからは  
一読者として毎月の発刊を楽  
しみにしたいと思います。

（坂本 初男）